



正田暁子さん、日本語指導でアルゼンチンへ！



「日系社会青年ボランティア」として、JICA（国際協力機構）からアルゼンチンに派遣される正田暁子さん（今津町出身）が、出発直前の6月20日（水）に市長を訪問されました。

正田さんは、これまで「青年海外協力隊員」としてフィリピンに派遣されるなど、諸外国の方々に日本語を教える「日本語指導員」として、活躍されてきました。

今回のアルゼンチンへの派遣では、現地の日本語学校で日本語指導にあたられるほか、音楽や書道を通じて、日本の歴史、文化、習慣なども伝えるそうです。

現地でのご活躍をお祈りするとともに、帰国された際には、私たちにもアルゼンチンの文化や習慣を教えてください！
（市民活動支援課）

● 高島市国際協会から ●

今津東コミュニティセンター内にある「高島市国際協会」では、市内にお住まいの外国人の方を対象とした「日本語教室」、また気軽に諸外国の文化や習慣に触れられる「異文化体験ワークショップ」、英語・韓国語などの外国語を学ぶ「国際交流サロン」を定期的に開催し、市民の方の国際理解や文化交流を進めています。今後のイベントの開催日程については、下記までお問い合わせください。

☎(20) 1180 (9時～17時) 🌐 <http://tifa-shiga.com/>

ゆかりの地巡り、周航ロマンに思い馳せる

琵琶湖周航の歌開示 95 周年記念「誕生の地近江今津まちなみ散策」「湖上クルージング」

6月25日（月）、琵琶湖周航の歌開示 95 周年を記念して、「誕生の地近江今津まちなみ散策」と「湖上クルージング」が行われました。まちなみ散策では、名所や旧跡を巡りながら旧制三高水上部員の足取りをたどりました。また、豪華観光船「ピアンカ」で周航の歌ゆかりの地を巡る「湖上クルージング」では、ソプラノ歌手 山本隆子さんのコンサート、元NHKアナウンサーで、琵琶湖周航の歌の研究者である飯田忠義さんの講演などが行われました。「湖上クルージング」には約250人が乗船。参加者らは、周航の歌にまつわる歴史やエピソードなどゆかりの地ならではの魅力に触れ、いにしへの周航ロマンに思いを馳せていました。（企画広報課）



この夏 あなたも周航ロマンを体験しませんか？！

今津港から竹生島を巡る竹生島クルーズに、高島市在住の方を対象の夏休み特別料金が設けられています。ぜひご利用ください。

▼期間 8月31日（金）まで

▼定員 毎便 20 人限定

▼往復料金（今津～竹生島）

大人1,600円、小人 800円
（通常料金）

大人2,920円、小人1,560円

▼横断料金（今津～竹生島～長浜）

大人1,700円、小人 850円
（通常料金）

大人3,150円、小人1,680円

※料金は拝観料込みの金額

時間等詳しくは琵琶湖汽船今津営業所
☎(22) 1747) へお問い合わせください。

社会教育（共育）研修会

「子ども社会の現実を知る。そして、私たちがすべきこと」を開催しました。



市内の小中学校では、「高島市いじめ対策指針」や「ストップいじめ行動計画」により、いじめ根絶に向けて取り組んでいます。しかし、学校だけではなく、私たち大人が子ども社会の現実を知り、家庭や地域力の向上と、人と人とのつながりを持って、未来を担う心豊かな子どもを育てられるように、6月16日（土）に安曇川公民館ふじのきホールで研修会を開催しました。研修会では、子どもたちと関わっていただいている方々によるパネルディスカッションと、立命館大学産業社会学部教授の野田正人さんによる講演を行いました。

○パネルディスカッション

子どもたちとの関わりを通じて感じること
①子どもたちが昔と比べて変化した点、②仲間づくりの様子、③親子の関係、④どんな子に育って欲しいか、⑤学校とのつながりで見たいことについて、さまざまな視点から討論がありました。



○講演

「今、私たちがすべきこと」

- ・「子どもたちの様相が変わった」という人もいますが、遺伝子的に変わる訳はなく、周りが変わったと言える。
- ・子どもたちが抱くしんどさのいくつかは、学校外のものであり、学校の中だけで解決できるものではない。
- ・「孤育て」ではなく「家庭を開き」、家庭・学校・地域が連携して、子どもたちが出すSOSに対し、「正義が勝つ」仕組みをどのようにつくるのかを考えていくことが重要。

立命館大学
産業社会学部
野田 正人 教授



家庭、学校、地域・・・みんな
で子どもたちを育て、私たちが大人
も共に育ちましょう

社会教育課

☎(32) 4457

○アンケートから（多かったご意見の抜粋）

●今の子どもたちの様子について感じる事

- ・今も昔も、子どもの本質は変わらない。変わったのは、子どもを取り巻く環境。
- ・大人（親）の生活スタイルの犠牲になっているように思う。
- ・学校、部活、習い事、塾など、忙しく過ごしていて、ストレスは大きいと思う。
- ・体験が不足している。中でも、叱られた体験が少ないのか、耐性がない。

●大人がすべきこととして感じられたこと

- ・近すぎて圧迫することや、遠すぎて見過ごすことのないように、丁度よい距離で見守り、接する。
- ・ルールを教え、体験させて自信を持たせる。
- ・子どもの本質が変わったのではなく、周りが変わったということを知り、自分が変わったということを知り、自分の普段の言動や考え方を直す。
- ・家庭、学校、地域、全体で子どもを見守り、育てていく。